

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和4年度
意見交換会(第1回)

岩手県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2022年8月9日

● 目次

1. 本日の論点
2. 過年度実施状況
3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性
4. テーマ案
5. 取り組み内容案
6. 今後のスケジュール
7. ディスカッション

● 1. 本日の論点

今年度の意見交換会・実践の場のテーマ案及び取り組み内容、参画団体、今後のスケジュールについて議論させていただきます。

論点 1

過年度事業の議論を踏まえ、岩手県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。

論点 2

取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。

論点 3

論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

● 2. 過年度実施状況：岩手県

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 年度ごとの成果 |
|------|--|--|--|---|--|--|
| テーマ | 関係人口の増加 | 関係人口増加から生まれる価値と、関わりを生むためのプロセス | 三陸沿岸の地域経済の担い手支援 | 東日本大震災から10年目にあたって | 関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり | 年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信 |
| 実践の場 | ラグビーワールドカップ釜石開催PRイベントの開催 「岩手三陸地域における関係人口の増加に向けた調査」の実施 | 「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」（宮古市） ブースセッションとパネルディスカッションによって、複数の切り口から、関係人口増加の価値や関わりを生む仕掛けづくりを紹介 | 「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」（大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会 | 「いわて沿岸とつながる交流会－これまでの10年を未来の力に－」（陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイディアを共有 | 「釜石の今と未来を考える 座談会」（釜石市） 地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれから発展について協議。これら協議の結果に関する意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える座談会」を開催。 | 課題 SDGsや人口減少等を意識したテーマ設定していくことや、関係者のネットワークやITを活用しながら広域・多業種の主体の参画 |

● 2. 過年度実施状況（実践の場）：岩手県

■令和元年度：令和元年11月25日「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします！～」

「三陸沿岸における地域経済の担い手育成」をテーマに、「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします！～」を企画・実施。



■令和2年度：令和3年1月23日（土）「いわて沿岸とつながる交流会～これまでの10年を未来の力に～」

「震災からの9年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する取組」をテーマに議論を重ね、震災後に復興活動などを通じて県内外の人々とのつながりが多く生まれてきたため、10年を機に、改めてそのつながりを広げ・深めていきたい。という思いから、岩手県沿岸部の方とこれまでに復興活動などでつながりのあった方が集まる交流会を実施。



■令和3年度：令和4年2月8日（火）「釜石の今と未来を考える座談会」

岩手県を拠点とする協議会の副代表団体等による意見交換会を実施し「地域内外の方に釜石エリアをふるさと感じてもらう地域活性化」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれからの発展について協議。



これら協議の結果を地域内外の関係者へ発信し、「ふるさと」への関わりについて意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える座談会」を開催。

第1部の講演パートでは、釜石市総務企画部総合政策課オープンシティ推進室長 金野尚史氏より「釜石市のパートナーシップによるまちづくりについて」を発表。第2部の座談会パートでは、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 客員准教授 村田信之氏の進行により、4名の登壇者の方々とオンライン参加の関係者が地域の発展に寄与する「ふるさと」への関わりについて意見交換を行った。

● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

令和3年度意見交換会・実践の場の整理

そもそも
問題意識・
ねらい

- ・地域の魅力としてまとめ、一体となって発信するような取組
- ・関係人口拡大のための地域産業の強化
- ・他県の事例共有に基づく課題解決検討
- ・専門家による地域の魅力の磨き上げ、地域商社機能の活用
- ・関係人口による周知拡大・販促

テーマ

＜複数年で取り組むテーマ＞

関係人口の維持・拡大 + 地域産業の活性化

＜単年度＞

関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり

令和3年度末の
到達目標

- ・専門家・関係人口を活用した商品開発・PRの実現
- ・上記達成の要因や必要な支援・制度等をノウハウとして整理

令和3年度の
取組結果

- ・市内の各種取組み主体は必ずしも一枚岩というわけではなく、「地元をよくするために」という大きなベクトルは同じでありながら、そこに至るアプローチの違いで協力が得にくいケースもある。
- ・地域外に向けた発信を想定するのであれば、取組の初期段階で幅広い関係者に声掛け・巻き込みを試みる形で協力者を募ることが望ましいという学びがあった。

● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

◎令和3年度第3回意見交換会における令和4年度テーマに関する意見

令和4年度のテーマについて第3回意見交換会で議論した結果、以下のような意見が挙げられた

- ・ テーマについては令和3年度と同じものに取り組むとよいのではないか。
- ・ 複数地域で取り組めば地域の連携も図れるのではないか。他の地域でも同様に実践ができるとよいのではないか。
- ・ 次年度はノウハウを広く発信することに注力しなければ、関係人口・交流人口へ広がらないのではないか。
- ・ 活動人口・関係人口へ取組への具体的な関わり方や役割を示す発信が必要であるのではないか。実践の場を考えると、関わる方への期待を整理して巻き込むことが重要ではないか。
- ・ 実践の場のような発信は一度きりになる傾向にあるため、継続的な取組となるよう設計すべきではないか。
- ・ 今後の拡大を考えると若年層をターゲットにしていくことも考慮してはどうか。

◎他県の意見交換会・協議の場も合わせたR3年度の総括的な振り返り

また、R3年度の意見交換会・協議の場を総括的に振り返ると、今年度は以下の視点が求められると考えられる。

- ・ 今年度の意見交換会での議論を通じ、「よりインパクトある課題設定・取組としていくこと」が求められ、その実現のためにはより多様な関係者が参画するよう調整・交渉を進める必要があるのではないか。
- ・ 活動の主体となる企業・団体の拡大に伴い、その活動に対するアイデア・知識を有する第三者の多様性の拡大も必要となることから、関与する第三者の特性も踏まえ、関与する場・方法を柔軟に設定する必要があるのではないか。
- ・ 副代表団体・事務局は、協議会を魅力あるプラットフォームとして継続的に機能させるため、インパクトある課題設定、幅広い関係者との調整・交渉を牽引していく必要があるのではないか。そのための高い視座を持ち、計画的に年度の事業を推進していくことが求められるのではないか。

● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

●令和4年度意見交換会・実践の場の方針（案）

令和4年度の意見交換会・実践の場の方針を下記の通り整理してはどうか。

震災発災から11年

東北地域の新たな課題

- 2019年に目標を1年前倒しして
外国人宿泊者数150万人泊を達成
- 2021年に三陸鉄道リアス線、復興道路が全線開通
- 復興から振興へ機運の高まり
- 振興に向けてインフラ整備が進んだものの、事業継承等の担い手が不足している

翌年に活動10年目を迎える

協議会の役割

- 設立当初は会員同士の情報共有、ノウハウ共有として役割を果たした
- 近年の会員の活動率は10%程度と推測する
- ノウハウの共有のみならず、実利につながることを求めていいるいのではないか
- 実利につながる役割を目指す

コロナ禍による

社会環境の変化

- コロナ禍により人々の交流は2年間制限された
- 移動することの意義が向上
- 物見雄山的な移動（観光）から、意味ある移動へ
- 人が本来持ち得ている知的欲求が増加し、移動することに意味を求めるようになりつある

● 4. テーマ案

意見交換会の方針及びテーマ

- 3県共通した意見交換会全体の方針について、「持続可能な地域づくり」に置いてはどうか
- また、3県共通した意見交換会全体のテーマについて、震災発災から11年が経過した中での、2023年のG7を見据えた「持続可能な地域づくりに向けた交流拡大」に置いてはどうか
- その上で、過年度からの議論を鑑み岩手県では、関係人口の視点を重視し、テーマを下記の通り設定してはどうか

✓ 岩手県：「関係人口を活用した持続可能な地域づくり」

● 5. 取り組み内容案

「関係人口を活用した持続可能な地域づくり」

● テーマ設定の背景

岩手県ではこれまで多様な第三者の参画に着目した取組みを推進してきた経緯がある。実際に同県では、復興道路の開通や三陸鉄道リアス線の全線開通により三陸地域へのアクセスの面から多様なプレイヤーが参画しやすい環境が整ってきている。よって、同県ではこれらの環境を活かしたこれからの三陸地域の在り方について、関係人口を活かす視点から持続可能な地域づくりを目指すこととする。

● テーマ設定の目的

地域のプレイヤーのみならず、地域外のプレイヤーも巻き込んでこれからの三陸地域の在り方を検討することで、人口減少等の社会課題にも打ち勝つことができる持続可能な地域づくりを目指す。

※次頁以降「各団体」の定義

- ・主団体：実践の場で取り組む内容を主体的に担う団体
- ・副代表団体：意見交換会の場において、実践の場に向けた取組案に対する助言を行う団体
- ・参画団体：実践の場で取り組む内容において、主団体と連携して取り組みを推進する団体

● 5. 取り組み内容案

| 項目 | 内容 |
|--------------|--|
| 取り組みテーマ | 「 <u>関係人口を活用した持続可能な地域づくり</u> 」 |
| 主団体 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 浄土ヶ浜ビジターセンター（運営事業者：一般社団法人浄土日和） |
| 副代表団体 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社岩手銀行 ・ 岩手県庁 ・ 国立大学法人岩手大学 ・ 特定非営利活動法人いわて連携復興センター |
| 想定参画団体 | ※第1回意見交換会で決定 |
| 意見交換会 内容案 | <p>●短期視点（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで三陸地域に係わってくれた域内外の事業者や団体の洗い出し ・これらの事業者や団体とのつながりを継続する方法 ・三陸地域に対する関心を継続させるための方法 <p>↓</p> <p><u>令和4年度取り組み（案）</u></p> <p>➢ みちのく潮風トレイルを活用したG7開催時（仙台会場）および大阪・関西万博を見据えたエクスカーションプログラムの作成</p> <p>➢ みちのく潮風トレイル、ガイディングテキストの作成</p> <p>●中長期視点（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エクスカーションプログラムを訪日外国人へ広げる方法 ・研究者や企業が訪れたくなるプログラムの開発 ・つながりを活かした新たな10年に向けた取り組み ・人手不足を解消するための三陸インターンシップ制度の設立 <p>↓</p> <p><u>令和4年度取り組み（案）</u></p> <p>中長期視点による取組は、「関係人口を活用した持続可能な地域づくり」に関する計画案策定</p> |
| 実践の場 | <ul style="list-style-type: none"> ・エクスカーションプログラムのパイロットプランを作成のうえ、モニタリングツアーを開催 ・モニタリングツアー参加者と意見交換会メンバーによる意見交換 |

● 6. 今後のスケジュール



● 7. ディスカッション

論点 1

過年度事業の議論を踏まえ、岩手県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。

ディスカッションテーマ①
取組テーマ案の確認

論点 2

取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。

ディスカッションテーマ②
参画団体の検討

論点 3

論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

ディスカッションテーマ③
今後のスケジュールの検討